

2019.9.22 年間第25主日

## 富は不正にまみれたもの、それを真の友人を得るために使え

ルカによる福音書 16:1-13

(そのとき、イエスは、弟子たちに言われた。)

「ある金持ちに一人の管理人がいた。この男が主人の財産を無駄使いしていると、告げ口をする者があった。そこで、主人は彼を呼びつけて言った。

『お前について聞いていることがあるが、どうなのか。会計の報告を出しなさい。もう管理を任せておくわけにはいかない。』管理人は考えた。『どうしようか。主人はわたしから管理の仕事を取り上げようとしている。土を掘る力もないし、物乞いをするのも恥ずかしい。そうだ。こうしよう。管理の仕事をやめさせられても、自分を家に迎えてくれるような者たちを作ればいいのだ。』そこで、管理人は主人に借りのある者を一人一人呼んで、まず最初の人に、『わたしの主人にいくら借りがあるのか』と言った。『油百バトス』と言うと、管理人は言った。『これがあなたの証文だ。急いで、腰を掛けて、五十バトスと書き直しなさい。』また別の人には、『あなたは、いくら借りがあるのか』と言った。『小麦百コロス』と言うと、管理人は言った。『これがあなたの証文だ。八十コロスと書き直しなさい。』主人は、この不正な管理人の抜け目のないやり方をほめた。この世の子らは、自分の仲間に対して、光の子らよりも賢くふるまっている。そこで、わたしは言うておくが、不正にまみれた富で友達を作りなさい。そうしておけば、金がなくなったとき、あなたがたは永遠の住まいに迎え入れてもらえる。」

「ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である。だから、不正にまみれた富について忠実でなければ、だれがあなたがたに本当に価値あるものを任せるだろうか。また、他人のものについて忠実でなければ、だれがあなたがたのものを与えてくれるだろうか。どんな召し使いも二人の主人に仕えることはできな

い。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」

## 説教

**わたしたちの罪をお許してください、わたしたちも人を赦します。**

これは「主の祈り」でわたしたちが日ごろ親しんでいる祈りです。管理人は自分の罪—主人の財産の無駄遣い—の結果クビになることを見越して、ご主人様に借りのある人たちに恩を売っておこうと負債の減額をしました。自分の罪の許してもらうために「人を赦」しました。不正な管理人は「主の祈り」を実践しました。

それから、イエスはたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作だった。金持ちは、『どうしよう。作物をしまっておく場所がない』と思い巡らしたが、やがて言った。『こうしよう。倉を壊して、もっと大きいのを建て、そこに穀物や財産をみなしまい、こう自分に言ってやるのだ。「さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しめ」と。』しかし神は、『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか』と言われた。自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ。」ルカ 12:16-21

あるときイエスは神は富を自分のためだけにつかう金持ちに死という裁きを下したと語られました。

イエスはお話しになった。「ある金貸しから、二人の人が金を借りていた。一人は五百デナリオン、もう一人は五十デナリオンである。二人には返す金がなかったので、金貸しは両方の借金を帳消しにしてやった。二人のうち、どちらが多くその金貸しを愛するだろうか。」シモンは、「帳消しにしてもらった額の多い方だと思います」と答えた。イエスは、「そのとおりだ」と言われた。ルカ 7:41-43

ここではイエスは金貸しに借金を帳消しにしてもらった二人の負債者の感謝の量、どちらの負債者のほうが金貸しを愛するだろうかとシモン（ペテロ）に問いかけています。たくさん借金のあったほうがより愛するとシモンは答え、イエスはそうだといいました。

きょうの管理人は主人に謝っても許してもらえないと考えたのか、負債者に愛してもらおうために策略します。ある人の借り油 100 バトスは 50 に、またある人の借り小麦 100 コロスは 80 にしました。ルカ 7 章の金貸しのたとえば、油 50 バトス分、小麦 20 コロス分の愛を得たことになるわけです。ちょっとおかしい点は 7 章では金貸しは自分の金をつかいますが、16 章の管理人は「主人の貸し」を自分の貸しのようにつかって自分が有利になるようにしています。人間からすれば自分の金か他人の金かはおおきな違いですが、でも主人 = 神の視点からすれば細かいことなのかもしれません。

**そこで、わたしは言うておくが、不正にまみれた富で友達を作りなさい。そうしておけば、金がなくなったとき、あなたがたは永遠の住まいに迎え入れてもらえる。**

ルカ 16:9

このたとえをうけて、イエスはこうまとめています。不正にまみれた富で友をつくりなさい。非常識なはなしですが、でも聖書はこれが福音だと伝えています。「罪の赦し」を願っても義なる神はとうてい赦せません。許しを乞う相手を神から人に変えなさい、それが「この世の子ら」にとって抜け目ないやり方です。

**主人は、この不正な管理人の抜け目のないやり方をほめた。この世の子らは、自分の仲間に対して、光の子らよりも賢くふるまっている。**

不正な管理人の油 50 バトス分の愛と、小麦 20 コロス分の愛を得る「やり方」は抜け目ない方法だとほめられます。「この世の子」は「光の子」より賢いとまで賞賛されています。この世の子とは人間のこと、光の子は天使かそれに似た者のことをさしているのでしょう。「この世の子」であるわたしたちはあくまで「この世の子」として生き、振る舞うことしかできません。光の子になったつもりは偽善をまねきます。この世の子はこの世の子らしく生きなさい、それが賢いふるまいだと福音は優しく伝えています。

-----